

0001 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：基礎

「システム・ソフトウェア要件定義」の「要件分類」を確認する。次の判断「機能要件。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. システムが実現すべき機能そのものを表しているため機能要件である。
- イ. 可用性は稼働率や停止許容時間などに関する要件である。
- ウ. 性能は応答時間や処理量などに関する要件である。
- エ. 保守性は変更・修正のしやすさなどに関する要件である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「可用性に関する非機能要件。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「性能に関する非機能要件。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「保守性に関する非機能要件。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「要件分類」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。システムが実現すべき機能そのものを表しているため機能要件である。要件定義では、何をするかという機能要件と、どの程度の品質で実現するかという非機能要件を区別する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0002 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」の演習で「著作権に関する要件だけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 応答時間という品質特性を定めているため性能の非機能要件である。
- イ. 法務要件ではない。
- ウ. 申請登録などの処理内容そのものを定める要求ではない。
- エ. DBキー設計に限定されない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「性能に関する非機能要件。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「業務機能そのものを定める機能要件。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「データベースの主キー要件だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「性能要件」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。法務要件ではない。非機能要件は性能、可用性、セキュリティ、保守性など、システムの品質や制約を定める。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0003 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：基礎

「利害関係者」に関する理解を確認する。「ハードウェア機器だけを指す。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 利用者も重要なステークホルダである。
- イ. 利用部門、運用部門、経営層、開発者など、システムに関係する主体がステークホルダとなり得る。
- ウ. 人や組織などの利害関係者を指す概念である。
- エ. 開発者だけに限定されない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「利用者を除く外部委託先だけを指す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「システムの開発・利用・運用などによって影響を受ける、又は影響を与える利害関係者。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「開発者だけを指す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「利害関係者」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。人や組織などの利害関係者を指す概念である。要件の抜けや対立を減らすには、関係するステークホルダを早期に特定することが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0004 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」を復習している。「現行業務を無視してデータベース製品だけ先に決める。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 利用者要求を取りこぼす可能性が高い。
- イ. 要件把握が遅過ぎる。
- ウ. インタビューや観察は暗黙の業務ルールや例外処理を把握するのに有効である。
- エ. 製品選定だけでは業務要件を明らかにできない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「利用部門へ確認せず開発者だけで要件を決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「テスト完了後に初めて業務内容を調査する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「担当者へのインタビューや業務観察を行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「ヒアリング」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。製品選定だけでは業務要件を明らかにできない。要件獲得ではヒアリング、観察、文書調査、ワークショップなどを目的に応じて使い分ける。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0005 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：応用

「ユースケースを理解する」ために、「ユースケース。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. ユースケースはアクターとシステムの相互作用を利用者視点で整理する。
- イ. WBSはプロジェクト作業を階層分解する。
- ウ. ガントチャートはスケジュールを可視化する。
- エ. PERTは所要期間見積りなどに使う。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「WBS。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ガントチャート。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「PERTだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「利用者視点」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。ユースケースはアクターとシステムの相互作用を利用者視点で整理する。 ユースケースは機能要件を利用シナリオとして整理するのに役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0006 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「システム・ソフトウェア要件定義」の「検証可能な要件」を確認する。次の選択「曖昧な表現をさらに増やす。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 認識差を解消できない。
- イ. 曖昧さが増える。
- ウ. 要件は検証可能な形で定義すると完成判定の客観性を高められる。
- エ. 要件を満たすか確認できなくなる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「利用部門へ要件を見せない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「測定可能な受入条件や評価基準を定め、要件を検証可能にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「受入テストを実施しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「検証可能な要件」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。曖昧さが増える。 要件定義では明確性、一貫性、完全性、検証可能性などが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0007 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：基礎

「システム・ソフトウェア要件定義」の演習で「全テストを省略できるようにする。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 変更管理を支援するが変更を禁止するものではない。
- イ. コード量削減が目的ではない。
- ウ. テスト不要にはならない。
- エ. トレーサビリティにより要件がどこで設計・実装・テストされているか追跡できる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「要件変更を禁止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「ソースコードの行数を必ず減らす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「要件の実装漏れや変更影響を確認しやすくする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「追跡可能性」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。テスト不要にはならない。要件からテストまでの対応を管理すると、漏れや変更影響を把握しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0008 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「認識合わせ」に関する理解を確認する。「完成するまで利用者へ一切見せない。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 利用者ニーズを反映できない。
- イ. 要件確認の時期が遅過ぎる。
- ウ. プロトタイプは具体的な画面や操作を見せながら潜在的な要求を引き出すのに有効である。
- エ. 認識差が後工程まで残りやすい。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「画面要件を開発者の好みだけで決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「運用開始後に初めて要件を確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「簡易なプロトタイプを作成し、利用者のフィードバックを得る。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「認識合わせ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。認識差が後工程まで残りやすい。曖昧な要求は早い段階で可視化し、反復的に確認することで手戻りを減らせる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0009 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：応用

「システム・ソフトウェア要件定義」の演習で「双方の目的・制約・リスクを整理し、ステークホルダ間で優先順位と妥協点を合意する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 相反する要件は背景と優先度を明確にして合意形成する必要がある。
- イ. 正当な要求を一方向的に排除するのは適切でない。
- ウ. 代替案の検討前に中止する必要はない。
- エ. 関係者の合意なしでは受入時に問題になりやすい。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「片方の要求を理由なく無視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「両方を同時に満たせないと決めつけて開発を中止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「開発者だけで秘密裏に決定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「優先順位付け」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。相反する要件は背景と優先度を明確にして合意形成する必要がある。要件定義は要求収集だけでなく、競合解消と合意形成を含む。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0010 システム開発 > システム・ソフトウェア要件定義 | 難易度：標準

「要件変更の影響分析を理解する」ために、「要件文書を更新せず口頭指示だけで進める。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 妥当な変更まで拒否するのは適切でない。
- イ. 追跡不能になる。
- ウ. 変更は影響範囲を評価し、承認後にベースラインや関連成果物へ反映する。
- エ. 予期せぬ品質・納期問題につながる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「変更要求は全て自動的に拒否する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「関連する設計・処理性能・テスト・納期・費用への影響を分析し、変更承認手続を行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「影響確認なしに直ちに実装する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム・ソフトウェア要件定義」の「変更管理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。追跡不能になる。要件変更ではトレーサビリティを用いて設計・テストへの影響も確認する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0011

システム開発 > 設計 | 難易度：基礎

「設計」の「設計レベル」を確認する。次の選択「運用監視だけ。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. プロジェクト管理の終結活動ではない。
- イ. 外部設計は利用者や外部システムから見える仕様を具体化する。
- ウ. 運用工程そのものではない。
- エ. 内部設計はモジュール構造や内部処理などをより詳細化する。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「プロジェクト終結だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「外部設計。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「内部設計だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「設計」の「設計レベル」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。運用工程そのものではない。設計は要求を実装可能な構造へ段階的に具体化する工程である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0012

システム開発 > 設計 | 難易度：標準

「設計」の演習で「全モジュールが互いの内部データを直接変更するようにする。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 凝集度が低くなり保守しにくい。
- イ. 分割による独立性を得られない。
- ウ. 高凝集・低結合にすると変更影響を局所化しやすい。
- エ. 強い結合となり変更波及が大きくなる。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「各モジュールへ無関係な機能をできるだけ集める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「一つの巨大モジュールに全機能をまとめる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「各モジュールの凝集度を高め、モジュール間の結合度を低くする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「設計」の「高凝集・低結合」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。強い結合となり変更波及が大きくなる。モジュール設計では責務を明確にして依存関係を抑えることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0013 システム開発 > 設計 | 難易度：基礎

「契約」に関する理解を確認する。「入力・出力データの形式、呼出し条件、エラー時の扱いなど。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. インタフェースでは受け渡すデータと呼出し規約を明確にする。
- イ. 実装上の契約とは無関係である。
- ウ. インタフェース仕様とは直接関係しない。
- エ. 行数だけでは接続条件を表せない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「担当者の座席位置だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「CPUの製造国だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ソースコードの行数だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「設計」の「契約」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。インタフェースでは受け渡すデータと呼出し規約を明確にする。 インタフェースを明確にすると並行開発や結合テストを進めやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0014 システム開発 > 設計 | 難易度：標準

「設計」を復習している。「パレート図。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 状態遷移図は状態とイベントによる遷移を表す。
- イ. 品質問題の重点分析に使う。
- ウ. スケジュール表示用である。
- エ. 相関分析に使う。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「状態遷移図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ガントチャート。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「散布図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「設計」の「状態依存処理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。品質問題の重点分析に使う。 状態に応じて可能な操作が変わるシステムでは状態遷移の明示が有効である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0015 システム開発 > 設計 | 難易度：応用

「データ設計と処理設計を整合できる」ために、「テスト工程まで問題を先送りする。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 不整合が残る。
- イ. 設計成果物間の不整合は実装前に解消すべきである。
- ウ. 後工程ほど修正コストが大きくなりやすい。
- エ. 要求を保存できず仕様を満たせない可能性がある。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「レビュー結果を無視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「画面・処理・データ設計の対応を確認し、必要なデータ項目と制約を整合させる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「画面仕様だけ残してDBへ保存しないままにする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「設計」の「整合性」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。後工程ほど修正コストが大きくなりやすい。 レビューでは設計書間の追跡性と整合性を確認する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0016 システム開発 > 設計 | 難易度：標準

「設計」の「例外設計」を確認する。次の選択「例外処理は実装者ごとに自由に決め、設計しない。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 外部依存では失敗を前提に設計する必要がある。
- イ. データ損失を招く。
- ウ. 異常系を設計段階で定義すると一貫した安全な挙動を実現できる。
- エ. 品質のばらつきが生じる。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「タイムアウトは絶対に起きないと仮定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「エラー時は必ず全データを削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「再試行条件、利用者への通知、ログ記録、代替処理などを事前に設計する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「設計」の「例外設計」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。品質のばらつきが生じる。 正常系だけでなく異常系、境界条件、復旧方法も設計することが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0017 システム開発 > 設計 | 難易度：基礎

「設計」を復習している。「利用者が学習した操作を再利用でき、操作ミスを減らしやすくする。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. UIの一貫性は利用者の学習負担を下げる。
- イ. 予測可能性が下がる。
- ウ. UI設計の主目的ではない。
- エ. 帯域増加とは関係しない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「画面ごとに操作方法を完全に変える。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「データベース容量を減らす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ネットワーク帯域を必ず増やす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「設計」の「一貫性」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。UIの一貫性は利用者の学習負担を下げる。UI設計では一貫性、フィードバック、誤操作防止などを考慮する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0018 システム開発 > 設計 | 難易度：標準

「最小権限設計」に関する理解を確認する。「実装後に必要なら考えるだけの後付け対策。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 圧縮の論点ではない。
- イ. 後付けでは設計上の抜けが残りやすい。
- ウ. 要件・設計段階から権限境界を定義することはセキュリティバイデザインに沿う。
- エ. 性能の論点ではない。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「データ圧縮だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「設計段階からアクセス制御を組み込むセキュリティバイデザイン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「性能チューニングだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「設計」の「最小権限設計」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。後付けでは設計上の抜けが残りやすい。認証、認可、ログ、入力検証などのセキュリティ要件は設計段階から具体化する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0019 システム開発 > 設計 | 難易度：応用

「設計」を復習している。「レビュー参加者の人数を増やすこと自体を目的とする。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. レビュー後もテストは必要である。
- イ. 実質的な確認がなければ品質向上につながらない。
- ウ. 人数は目的ではない。
- エ. レビューは欠陥を早期に見つけて品質を高める活動である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「テストを全て不要にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「設計書を読まず承認印だけ集める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「実装前に仕様の抜け、矛盾、誤りを発見し、後工程への欠陥流出を減らす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「設計」の「早期欠陥検出」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。人数は目的ではない。早期工程での欠陥除去は後工程の手戻り削減にも有効である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0020 システム開発 > 設計 | 難易度：標準

「設計上のトレードオフを評価できる」ために、「性能だけを見て他の品質特性は無視する。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 複雑さ自体が価値ではない。
- イ. 説明可能な設計判断にならない。
- ウ. 設計では複数の品質特性や制約のトレードオフを評価する。
- エ. 全体最適にならない可能性がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「最も複雑な方式を常に選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「評価せず担当者の好みで決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「性能要件と保守性、障害時の影響、実装コストを比較し、必要性を根拠付きで判断する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「設計」の「性能と保守性」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。全体最適にならない可能性がある。アーキテクチャ設計では性能、可用性、保守性、コストなどを総合評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0021 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：基礎

「実装・テスト・導入・保守」の「標準化」を確認する。次の判断「記述方法を標準化し、可読性や保守性を高める。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 規約により命名や書式を統一するとコードを理解しやすくなる。
- イ. 可読性が低下する。
- ウ. 規約とテストは役割が異なる。
- エ. 著作権取得手続を目的としない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「全プログラムを同じ1行に記述する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「テストを不要にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「プログラムの著作権を自動取得する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「標準化」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。規約により命名や書式を統一するとコードを理解しやすくなる。 共同開発ではコード品質を一定に保つための標準化が重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0022 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：標準

「実装・テスト・導入・保守」の演習で「システム全体の運用テストだけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 事業継続活動である。
- イ. 対象範囲が広い。
- ウ. 個々の関数・クラス・モジュールを検証するのが単体テストである。
- エ. 利用者視点で受入条件を確認するテストである。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「災害復旧訓練。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「単体テスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「受入テスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「モジュール検証」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。対象範囲が広い。 単体テストは実装直後の欠陥を局所的に発見しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0023 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：基礎

「インタフェース検証」に関する理解を確認する。「受入テストだけ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 静的レビューであり実行テストではない。
- イ. 結合テストはモジュール間のインタフェースや連携を確認する。
- ウ. 利用者による受入確認とは目的が異なる。
- エ. 個別モジュール単体を検証する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「コードレビューだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「結合テスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「単体テスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「インタフェース検証」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。利用者による受入確認とは目的が異なる。結合順序に応じてトップダウンやボトムアップなどの方法を用いる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0024 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：標準

「実装・テスト・導入・保守」を復習している。「コンパイラ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. ドライバは未完成の上位モジュールを代替して下位モジュールを呼び出す。
- イ. 実行形式を主記憶へ配置する。
- ウ. スタブは上位モジュールから呼び出される未完成の下位モジュールを代替する。
- エ. 翻訳ツールである。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「ドライバ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「ローダ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「スタブ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「トップダウンテスト」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。翻訳ツールである。トップダウンではスタブ、ボトムアップではドライバを使う関係を理解する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0025 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：応用

「回帰テストを理解する」ために、「回帰テスト。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 回帰テストは変更によって既存機能へ副作用が生じていないか確認する。
- イ. 性能確認だけでは機能退行を十分に確認できない。
- ウ. セキュリティ評価に限定される。
- エ. テストを弱める対応である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「負荷テストだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ペネトレーションテストだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「受入条件の削除。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「変更影響確認」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。回帰テストは変更によって既存機能へ副作用が生じていないか確認する。自動化された回帰テストを用意すると変更頻度が高い開発で有効である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0026 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：標準

「実装・テスト・導入・保守」の「分岐網羅」を確認する。次の選択「機能点法。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 分岐網羅は各判定結果の真・偽を実行したかを見る。
- イ. 規模見積り手法である。
- ウ. 命令網羅では全命令実行だけを確認し、全分岐を必ず通るとは限らない。
- エ. DB設計技法である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「分岐網羅。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「命令網羅だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「データベース正規化。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「分岐網羅」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。規模見積り手法である。ホワイトボックステストでは命令、分岐、条件などの網羅率を利用する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0027 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：基礎

「実装・テスト・導入・保守」の演習で「CPUベンチマークだけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. コードを実行せず解析する手法である。
- イ. 受入テストは発注者・利用者の要求を満たしているか確認する。
- ウ. ハードウェア性能評価である。
- エ. 内部モジュールの検証である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「静的解析だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「受入テスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「単体テストだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「利用者確認」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ハードウェア性能評価である。要件定義時に明確な受入条件を定めておくとう入判定が客観的になる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0028 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：標準

「本番切替え」に関する理解を確認する。「利用者教育を禁止する。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. データ損失につながる。
- イ. むしろ計画の妥当性確認に使う。
- ウ. リハーサルによりデータ変換、手順、時間、ロールバック方法を検証できる。
- エ. 導入成功には教育も重要である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「本番データを事前に削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「移行計画を不要にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「移行失敗や時間超過のリスクを事前に把握し、切替手順を改善する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「本番切替え」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。導入成功には教育も重要である。本番切替えでは技術作業だけでなく停止時間、連絡、復旧判断も事前に決める。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0029 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：応用

「実装・テスト・導入・保守」の演習で「適応保守。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 外部環境の変化へソフトウェアを適応させるのが適応保守である。
- イ. 発見済み不具合を修正する保守である。
- ウ. 性能・使い勝手などを改善する保守である。
- エ. 将来の障害を防ぐため構造改善などを行う保守である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「是正保守。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「完全化保守。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「予防保守だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「適応保守」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。外部環境の変化へソフトウェアを適応させるのが適応保守である。 保守は不具合修正だけでなく環境変化や改善にも対応する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0030 システム開発 > 実装・テスト・導入・保守 | 難易度：標準

「保守性向上を理解する」ために、「機能追加。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 開発停止ではない。
- イ. 利用者機能を増やすことが主目的ではない。
- ウ. リファクタリングは外部から見た振る舞いを保ちながら内部設計を改善する。
- エ. データ削除とは無関係である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「プロジェクト中止。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「リファクタリング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「データ削除。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「実装・テスト・導入・保守」の「リファクタリング」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。利用者機能を増やすことが主目的ではない。 継続的な構造改善は保守性を高め、将来変更のリスクを下げる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0031 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：基礎

「ウォーターフォール・アジャイル」の「順次開発」を確認する。次の選択「短い反復を繰り返し、各反復で動く成果物を必ず提供することだけ」を特徴とする。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 計画や文書化を行う。
- イ. 要件定義は開発初期の重要工程である。
- ウ. 「短い反復を繰り返し、各反復で動く成果物を必ず提供することだけ」を特徴とする。」はアジャイルの反復的・漸進的な特徴に近い。
- エ. ウォーターフォールは工程を段階的に進め、各工程の成果物を次工程へ引き渡す考え方である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「計画や文書化を一切行わない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「運用開始後に初めて要件を定義する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「要件定義、設計、実装、テストなどの工程を原則として順に進める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「順次開発」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。「短い反復を繰り返し、各反復で動く成果物を必ず提供することだけ」を特徴とする。」はアジャイルの反復的・漸進的な特徴に近い。要求が比較的安定し、工程ごとの管理を重視する開発で適用しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0032 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：標準

「ウォーターフォール・アジャイル」の演習で「要件誤りは自動的に修正される。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 要件との適合確認はテストでも重要である。
- イ. 一般に後工程の変更ほど影響範囲が大きくなりやすい。
- ウ. 上流工程の欠陥が後工程まで流出すると複数成果物の修正が必要になる。
- エ. 自動修正されるわけではない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「テスト工程では要件を確認する必要がある。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「後工程ほど修正コストは必ず小さくなる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「設計や実装まで戻る大きな手戻りが発生しやすい。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「後工程手戻り」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。自動修正されるわけではない。工程ごとのレビューで欠陥を早期に除去することが手戻り抑制に有効である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0033 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：基礎

「反復・適応」に関する理解を確認する。「短い反復で動く成果を確認し、利用者からのフィードバックを取り込みながら適応的に開発する。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. アジャイルは反復的・漸進的に開発し、変化へ適応する。
- イ. 変更を絶対禁止する考え方ではない。
- ウ. 顧客との協調を重視する。
- エ. 各反復で継続的にテストする。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「最初に全仕様を固定し、その後の変更を一切認めない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「利用者との対話を避ける。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「テストは最後の一回だけ行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「反復・適応」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。アジャイルは反復的・漸進的に開発し、変化へ適応する。短いサイクルで価値と学習を積み重ねることがアジャイルの基本である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0034 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：標準

「ウォーターフォール・アジャイル」を復習している。「開発者だけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. スクラム固有の役割ではない。
- イ. 開発者はスプリントで成果を作る。
- ウ. プロダクトオーナーはプロダクトバックログを管理し価値最大化を担う。
- エ. スクラムマスターはスクラムの理解・実践を支援する。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「監査人。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「プロダクトオーナー。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「スクラムマスター。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「プロダクトオーナー」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。開発者はスプリントで成果を作る。役割ごとの責任を明確にすることがスクラム運営の基本である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0035 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：応用

「スプリントを理解する」ために、「プロジェクト完了後だけに行う振り返り。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 変化を受け入れない考え方ではない。
- イ. スプリントは一定期間で区切る反復である。
- ウ. 振り返りは各スプリントでも行う。
- エ. タイムボックスという特徴に反する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「利用者要件を永久に凍結する期間。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「一定期間のタイムボックス内で、利用可能なインクリメントを作る反復単位。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「期間を定めず終了条件もない作業。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「タイムボックス」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。振り返りは各スプリントでも行う。短い期間で計画・開発・レビュー・改善を回す。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0036 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：標準

「ウォーターフォール・アジャイル」の「バックログ」を確認する。次の選択「WBSだけ。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. スプリントバックログは当該スプリントで実施する項目と計画である。
- イ. 障害記録である。
- ウ. プロダクトバックログはプロダクト全体の要求・改善項目を管理する。
- エ. プロジェクト作業分解構造でありスクラム固有の要求一覧ではない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「スプリントバックログ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「障害ログ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「プロダクトバックログ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「バックログ」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。プロジェクト作業分解構造でありスクラム固有の要求一覧ではない。プロダクトバックログは継続的に見直し、価値や優先度に応じて更新する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0037 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：基礎

「ウォーターフォール・アジャイル」を復習している。「ペアプログラミング。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. ペアプログラミングは二人でコード作成を共同して行うXPの代表的実践である。
- イ. プロジェクトスケジュール短縮技法である。
- ウ. レビュー手法ではあるが二人で常時実装する方式とは異なる。
- エ. 順番に割り当てる方式である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「ファストトラッキング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ウォークスルーだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ラウンドロビン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「ペアプログラミング」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。ペアプログラミングは二人でコード作成を共同して行うXPの代表的実践である。知識共有や早期レビューの効果が期待できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0038 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：標準

「テスト先行」に関する理解を確認する。「仕様変更のたびに全テストを削除する。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. TDDはテストを先に定義し、実装と改善を短いサイクルで行う。
- イ. テスト資産は回帰確認に利用する。
- ウ. テスト先行という特徴に反する。
- エ. 自動テストを重要な要素とする。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「先に失敗するテストを書き、最小限の実装で成功させ、その後リファクタリングする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「全実装完了後に初めてテストを考える。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「テストコードを作らず手動確認だけにする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「テスト先行」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。テスト資産は回帰確認に利用する。TDDではテストが設計へのフィードバックとしても機能する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0039 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：応用

「ウォーターフォール・アジャイル」を復習している。「顧客との対話を禁止する。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 問題を可視化して改善する。
- イ. レトロスペクティブはチームの仕事の進め方を改善するための振り返りである。
- ウ. フィードバックを重視する。
- エ. バックログは状況に応じて更新される。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「不具合を隠す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「開発プロセスや協働方法を継続的に改善する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「プロダクトバックログを永久に固定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「ふりかえり」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。フィードバックを重視する。 KPTなどの方法で具体的な改善行動へつなげる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0040 開発プロセス・開発管理 > ウォーターフォール・アジャイル | 難易度：標準

「開発モデルを適切に選択できる」ために、「変更要求を全て禁止する方式。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 市場変化を反映しにくい。
- イ. 品質確保に問題がある。
- ウ. 不確実性や変更頻度が高い状況では短い反復で学習する方式が適しやすい。
- エ. 価値ある変更にも対応できない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「全要件を長期間固定し、完成まで利用者へ見せない方式だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「テスト工程を省略する方式。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「短い反復でリリースとフィードバックを繰り返すアジャイル開発。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「ウォーターフォール・アジャイル」の「モデル選択」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。価値ある変更にも対応できない。 開発モデルは要求の安定性、リスク、組織特性、納期などを考慮して選ぶ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0041 開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：基礎

「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「開発運用連携」を確認する。次の判断「開発と運用が連携し、自動化や継続的改善によって迅速かつ安定したサービス提供を目指す。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. DevOpsは開発と運用の協働、フィードバック、自動化を重視する。
- イ. サイロ化を減らす方向である。
- ウ. 迅速な価値提供を目指す。
- エ. 品質確保のためテスト自動化などを組み合わせる。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「開発と運用を完全に分断して情報共有を禁止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「リリース頻度を下げることだけを目的とする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「テストを行わず本番へ直接投入する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「開発運用連携」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。DevOpsは開発と運用の協働、フィードバック、自動化を重視する。DevOpsはツール導入だけでなく文化・プロセス・自動化を含む考え方である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0042 開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：標準

「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の演習で「リリース時だけ一年分の変更を一度に統合する。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 共有リポジトリを活用する。
- イ. 統合競合や欠陥が大きくなる。
- ウ. CIは小さな変更を頻繁に統合し、自動検証する。
- エ. 自動ビルド・テストがCIの重要要素である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「ソースコードを共有しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「開発者の変更を頻繁に共有リポジトリへ統合し、自動ビルドやテストで早期に問題を検出する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「テストを自動実行しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「継続的インテグレーション」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。統合競合や欠陥が大きくなる。統合問題を早期に発見することで開発の安定性を高める。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0043 開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：基礎

「リリース可能状態」に関する理解を確認する。「全変更を人手確認なしで必ず即時本番へ公開することだけを意味する。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. バージョン管理は重要な基盤である。
- イ. テストはパイプライン途中で行う。
- ウ. 「全変更を人手確認なしで必ず即時本番へ公開することだけを意味する。」は継続的デプロイの説明に近い。
- エ. 継続的デリバリーは本番へ出せる状態まで継続的に自動化する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「ソース管理を使用しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「本番反映までテストしない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「変更を自動的にビルド・テストし、いつでも本番リリース可能な状態へ保つ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「リリース可能状態」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。「全変更を人手確認なしで必ず即時本番へ公開することだけを意味する。」は継続的デプロイの説明に近い。デリバリーとデプロイは本番反映の自動化範囲で区別する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0044 開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：標準

「DevOps・CI/CD・テスト自動化」を復習している。「継続的デリバリーだけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 開発モデルの一種であり自動本番反映の定義ではない。
- イ. 構成状態を検証する活動である。
- ウ. 継続的デプロイではパイプラインを通過した変更を本番へ自動反映する。
- エ. デリバリーはリリース可能状態までの自動化で、人手承認を残す構成もある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「ウォーターフォール。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「構成監査。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「継続的デプロイ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「自動本番反映」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。デリバリーはリリース可能状態までの自動化で、人手承認を残す構成もある。自動デプロイではテスト、監視、ロールバック設計が重要になる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0045

開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：応用

「CI/CDパイプラインを理解する」ために、「後続の本番配備を停止し、失敗原因を修正して再実行する。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 品質ゲートで失敗した変更を後工程へ流さないことで欠陥混入を抑える。
- イ. 本番障害の可能性を高める。
- ウ. 原因分析に必要な証拠を失う。
- エ. 正当な理由なく無効化すると品質を損なう。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「失敗を無視して必ず本番へ配備する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「テスト結果を削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「失敗したテストだけ永久に無効化する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「品質ゲート」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。品質ゲートで失敗した変更を後工程へ流さないことで欠陥混入を抑える。自動化は速度向上だけでなく、一貫した品質基準の適用にも役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0046

開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：標準

「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「回帰テスト」を確認する。次の選択「要件が未定義で期待結果も分からないテスト。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 機械的な合否判定が難しい。
- イ. 期待結果がなければ自動判定できない。
- ウ. 繰り返し回数が多く結果判定を機械化できるテストは自動化効果が高い。
- エ. 自動化投資の回収効果が低い場合がある。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「人の感性評価だけが必要なテスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「頻繁に繰り返す回帰テスト。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「一度しか行わない臨時の目視確認だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「回帰テスト」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。期待結果がなければ自動判定できない。テスト自動化は対象選定と保守コストも考慮する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0047

開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：基礎

「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の演習で「セキュリティ部門と開発部門の連携を禁止する。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 速度と安全性の両立を目指す。
- イ. DevSecOpsはセキュリティを開発ライフサイクルへ統合する。
- ウ. 協働を重視する。
- エ. 後工程だけでは修正コストが大きくなりやすい。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「脆弱性があってもリリース速度だけを優先する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「開発・運用の流れへセキュリティ活動も継続的に組み込み、自動検査や早期対策を行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「セキュリティ確認をリリース後だけに限定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「セキュリティ統合」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。協働を重視する。 静的解析、依存関係検査、IaC検査などをパイプラインへ組み込むことがある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0048

開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：標準

「信頼性目標」に関する理解を確認する。「ウォーターフォールだけ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. テスト手法の一つにすぎない。
- イ. 資産管理活動である。
- ウ. SREはSite Reliability Engineeringで、信頼性と運用効率を工学的に扱う。
- エ. 開発モデルの一種である。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「単体テストだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「ライセンス監査だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「SRE。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「信頼性目標」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。開発モデルの一種である。 SLOや監視、エラーバジェットなどを活用して信頼性と変更速度のバランスを取る。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0049

開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：応用

「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の演習で「カナリアリリース。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. カナリアリリースは小さな対象から変更を公開し、問題時の影響を限定する。
- イ. 全体を一度に切り替える方式である。
- ウ. リリース方式ではない。
- エ. コードを実行せず解析する手法である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「ビッグバン移行だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「全件削除。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「静的解析。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「カナリアリリース」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。カナリアリリースは小さな対象から変更を公開し、問題時の影響を限定する。自動監視と組み合わせると段階的デプロイの安全性を高められる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0050

開発プロセス・開発管理 > DevOps・CI/CD・テスト自動化 | 難易度：標準

「不安定な自動テストを理解する」ために、「結果が変動することを正常として放置する。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 不安定なテストはパイプラインへの信頼を下げるため原因を除去する。
- イ. 継続的な開発速度をむしろ下げる。
- ウ. 真の不具合を見逃す可能性がある。
- エ. 品質確認ができなくなる。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「テストの非決定要因や環境依存を調査し、安定して再現可能なテストへ修正する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「失敗は全て無視して本番へ進める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「テスト件数を0にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「DevOps・CI/CD・テスト自動化」の「Flaky Test」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。継続的な開発速度をむしろ下げる。自動テストは高速であるだけでなく、再現性と信頼性が重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0051

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：基礎

「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「履歴管理」を確認する。次の選択「ライセンス契約を自動的に締結する。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. テストとは別の管理機能である。
- イ. バージョン管理は変更履歴、差分、版を管理する。
- ウ. 契約締結機能ではない。
- エ. 変更を禁止する仕組みではない。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「テストを不要にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「ソースコード等の変更履歴を記録し、複数人での変更統合や過去版への追跡を可能にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「ソースコードを一度保存したら変更不能にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「履歴管理」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。契約締結機能ではない。 共同開発では誰がいつ何を変更したかを追跡できることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0052

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：標準

「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の演習で「過去版を全て削除してから開発する。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 競合や変更履歴を管理しにくい。
- イ. 版管理や差分追跡に不向きである。
- ウ. ブランチは変更系列を分け、マージで統合できる。
- エ. 復旧可能性を失う。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「全開発者が同じファイルを履歴なしで上書きする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「ソースコードをメール添付だけで管理する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ブランチを作成して開発し、必要なレビュー後にマージする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「並行開発」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。復旧可能性を失う。 ブランチ戦略は開発規模やリリース方式に合わせて設計する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0053

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：基礎

「CI」に関する理解を確認する。「構成品目。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 構成品目は構成管理の対象として識別・管理する成果物である。
- イ. 利害関係者である。
- ウ. プロジェクト作業の管理単位である。
- エ. 重要な時点を示す。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「ステークホルダ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ワークパッケージ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「マイルストーン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「CI」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。構成品目は構成管理の対象として識別・管理する成果物である。構成品目ごとに版、状態、変更履歴を管理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0054

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：標準

「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」を復習している。「一時ファイル。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. テスト代替モジュールである。
- イ. 一時的な作業ファイルではない。
- ウ. ベースラインは正式に承認され、以後の変更を管理する基準となる版である。
- エ. 高速化用の一時保存ではない。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「テストスタブ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ベースライン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「キャッシュ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「承認済み基準」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。一時的な作業ファイルではない。ベースラインを設定すると無秩序な変更を防ぎ、変更履歴を追跡しやすくなる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0055

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：応用

「変更管理手順を理解する」ために、「要求者が口頭で伝えたら直ちに本番へ反映する。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 追跡性が失われる。
- イ. 予期せぬ問題を招く。
- ウ. 品質・納期・コストへの影響を管理できない。
- エ. 変更管理では要求受付、影響分析、承認、実施、確認を統制する。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「変更履歴を残さない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「影響分析を行わない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「変更内容と影響を評価し、承認・却下を決定してから計画や構成品目へ反映する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「変更要求」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。品質・納期・コストへの影響を管理できない。変更を禁止するのではなく、統制された手続で扱うことが目的である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0056

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：標準

「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「変更承認」を確認する。次の選択「CSIRT。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 認証局である。
- イ. PMOIはプロジェクト管理支援組織でありCCBと同義ではない。
- ウ. CCBはChange Control Boardで、変更要求の判断を行う。
- エ. セキュリティインシデント対応組織である。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「CA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「PMOだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「CCB。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「変更承認」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。セキュリティインシデント対応組織である。重要変更を一貫した基準で判断するためにCCBを設けることがある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0057

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：基礎

「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」を復習している。「依存関係やツールのバージョンを明示し、再現可能なビルド環境を標準化する。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 環境構成をコードや定義ファイルで管理すると差異を減らせる。
- イ. 再現性が低下する。
- ウ. 品質ゲートが機能しなくなる。
- エ. 原因追跡が難しくなる。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「各開発者が好きな版を無記録で使う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「CIで失敗しても毎回手動で無視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「依存ライブラリ一覧を削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「環境差異」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。環境構成をコードや定義ファイルで管理すると差異を減らせる。開発環境管理ではコンパイラ、ライブラリ、設定などの版を統一・記録することが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0058

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：標準

「棚卸し」に関する理解を確認する。「契約条件を確認しない。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 資産回収や再割当てができない。
- イ. 利用条件を理解する必要がある。
- ウ. ライセンス棚卸しにより契約超過や未使用資産を把握できる。
- エ. 契約違反となる可能性がある。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「退職者PCのライセンス利用状況を管理しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「保有ライセンス数と実際のインストール・利用数を定期的に照合する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「購入数に関係なく無制限にコピーする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「棚卸し」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。利用条件を理解する必要がある。ソフトウェア資産管理では契約、保有数、利用状況を継続的に管理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0059

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：応用

「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」を復習している。「ライセンス文書を削除して配布する。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

ア. ライセンスごとに条件は異なる。

イ. OSSにもGPL、Apache Licenseなど異なるライセンス条件がある。

ウ. 表示義務等に違反する可能性がある。

エ. 無条件利用を意味しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「全OSSは必ず同一条件だと仮定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「採用するOSSのライセンス条項を確認し、再配布や表示、ソース公開など必要な条件を遵守する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「OSSなので利用条件は一切存在しないと考える。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「利用条件」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。表示義務等に違反する可能性がある。OSS利用では法務・技術の両面からライセンス適合性を確認する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0060

開発プロセス・開発管理 > 開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス | 難易度：標準

「SBOMを構成管理へ活用できる」ために、「プロジェクトの座席表だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

ア. ソフトウェア構成とは無関係である。

イ. 名前解決情報である。

ウ. SBOMは製品を構成するソフトウェア部品や依存関係の把握に役立つ。

エ. 依存関係を示さない。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「利用者の画面解像度だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「DNSキャッシュだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「SBOMと製品版ごとの構成管理記録。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「開発環境・構成管理・変更管理・ライセンス」の「依存関係把握」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。依存関係を示さない。構成管理とSBOMを組み合わせると脆弱性やライセンス影響の追跡性を高められる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0061 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：基礎

「計画・スコープ・WBS・資源」の「正式開始」を確認する。次の判断「プロジェクトの目的や概要を示し、正式な開始とプロジェクトマネージャの権限付与の根拠とする。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. プロジェクト憲章はプロジェクトの正式な立上げに関係する文書である。
- イ. テスト設計書の役割である。
- ウ. コーディング規約の内容である。
- エ. ネットワーク構成管理の内容である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「全テストケースを詳細に記述する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ソースコードの命名規則だけを定める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ネットワーク機器のMACアドレスだけを管理する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「正式開始」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。プロジェクト憲章はプロジェクトの正式な立上げに関係する文書である。プロジェクト開始時には目的、期待成果、責任と権限を明確にすることが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0062 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：標準

「計画・スコープ・WBS・資源」の演習で「納期だけ決めて作業内容は管理しない。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. スコープ管理では何を含み何を含まないかを明確にする。
- イ. 作業範囲の管理が必要である。
- ウ. 無秩序な追加はスコープクリープにつながる。
- エ. 完了条件を判断しにくい。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「必要な成果物と作業範囲を明確にし、承認されていない範囲拡大を統制する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「利用者から要望が出るたび無条件に作業を追加する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「成果物を定義せず開始する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「対象範囲」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。作業範囲の管理が必要である。スコープは成果物と、それを作るために必要な作業を統制する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0063 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：基礎

「作業分解」に関する理解を確認する。「ソースコードの実行履歴。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. DB設計とは無関係である。
- イ. WBSはWork Breakdown Structureで、プロジェクト作業を階層分解する。
- ウ. 実行ログでもない。
- エ. ルーティングテーブルではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「データベース表の正規形一覧。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「プロジェクトの成果物や作業を管理可能な単位へ階層的に分解した構造。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「ネットワーク経路を表す表。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「作業分解」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。実行ログでもない。WBSは見積り、担当割当て、進捗管理などの基礎となる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0064 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：標準

「計画・スコープ・WBS・資源」を復習している。「マイルストーンだけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. プロジェクト立上げ文書である。
- イ. リスク情報を管理する。
- ウ. ワークパッケージはWBS上で管理可能な作業のまとまりである。
- エ. マイルストーンは重要な時点であり作業単位とは異なる。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「プロジェクト憲章。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「リスク登録簿。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ワークパッケージ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「管理単位」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。マイルストーンは重要な時点であり作業単位とは異なる。作業を適切な粒度まで分解することで見積りや進捗把握がしやすくなる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0065 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：応用

「スコープクリープを理解する」ために、「スコープクリープ。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 承認されない範囲拡大が積み重なることをスコープクリープという。
- イ. スケジュール技法ではない。
- ウ. 品質活動ではない。
- エ. 開発プラクティスである。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「クリティカルパス短縮。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「品質保証。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ベアプログラミング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「無承認追加」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。承認されない範囲拡大が積み重なることをスコープクリープという。変更要求は影響を評価して正式にスコープへ反映する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0066 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：標準

「計画・スコープ・WBS・資源」の「要員配分」を確認する。次の選択「専門家一人へ同時に無制限の作業を割り当てる。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. スキル不一致により品質が低下し得る。
- イ. 物理的に処理可能な能力を超える。
- ウ. 資源制約を考慮して実行可能な計画へ調整する必要がある。
- エ. 遅延原因となる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「必要スキルを考慮せず無作為に割り当てる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「優先順位や依存関係を確認し、割当て時期や担当を調整して資源競合を解消する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「競合を記録せず放置する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「要員配分」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。物理的に処理可能な能力を超える。資源計画では人数だけでなくスキル、利用可能期間、負荷を考える。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0067 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：基礎

「計画・スコープ・WBS・資源」の演習で「全てのプロジェクトのプログラミングだけを担当する。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 法定監査専用組織ではない。
- イ. ネットワークサービスではない。
- ウ. 実装担当だけに限定されない。
- エ. PMOはProject Management Officeで、組織的なプロジェクト管理を支援する。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「監査法人として法定監査だけを行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「DNS名前解決だけを行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「複数プロジェクトに対して標準化、管理手法、ツール、教育などの支援を行う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「管理支援」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。実装担当だけに限定されない。PMOは標準化や知見共有によりプロジェクト管理能力の底上げに役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0068 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：標準

「関与戦略」に関する理解を確認する。「反対しているため情報提供を完全に止める。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 実際の影響力は消えない。
- イ. 合意形成の機会を失う。
- ウ. 影響力の高いステークホルダは適切に関与を管理する必要がある。
- エ. 反対が強まる可能性がある。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「存在をステークホルダ登録から削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「プロジェクト終結まで接触しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「関心・影響力・期待を分析し、必要な説明や関与方法を計画する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「関与戦略」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。反対が強まる可能性がある。ステークホルダ分析では期待や態度を把握し、コミュニケーション戦略へ反映する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0069 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：応用

「計画・スコープ・WBS・資源」の演習で「成果物や作業を、見積り・担当・進捗管理が可能な粒度まで段階的に分解する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 管理可能な粒度まで分解することがWBS作成の目的である。
- イ. 管理性がさらに低下する。
- ウ. 計画・見積りの基盤を失う。
- エ. 進捗判断ができない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「さらに大きな一項目へまとめる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「WBSを廃止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「担当者だけ決めて作業内容は定義しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「過不足ない分解」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。管理可能な粒度まで分解することがWBS作成の目的である。細が過ぎても管理コストが増えるため、目的に応じた適切な粒度が必要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0070 プロジェクトマネジメント > 計画・スコープ・WBS・資源 | 難易度：標準

「計画の整合性を理解する」ために、「要員や予算は変更後も必ず同じでよい。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 統合管理では各領域の計画を相互に調整する必要がある。
- イ. 必要資源も変化し得る。
- ウ. スコープ変更は工数、期間、コスト、リスクなどへ波及する可能性がある。
- エ. 実際には影響分析が必要である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「プロジェクト計画は各領域を完全に独立して管理すべきである。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「相互に関連する計画への影響を反映しておらず、全体計画の整合性が失われている。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「スコープ変更は他の計画へ一切影響しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「計画・スコープ・WBS・資源」の「統合計画」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。必要資源も変化し得る。統合管理では、承認された変更をスケジュール、コスト、資源、リスクなど関連する計画へ整合的に反映する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0071 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：基礎

「スケジュール・コスト・EVM」の「最長経路」を確認する。次の選択「担当者数が最も多い作業だけの経路。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 品質問題の有無を示す経路ではない。
- イ. クリティカルパス上の遅延は原則としてプロジェクト完了へ直接影響する。
- ウ. 人数だけで決まるものではない。
- エ. コストだけで決まるものではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「必ず品質問題が起こる経路。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「プロジェクト完了時期を決める、全体の所要期間が最長となる経路。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「最もコストが安い作業だけを結んだ経路。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「最長経路」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。人数だけで決まるものではない。スケジュール短縮を検討する際は、クリティカルパスを把握して全体期間に影響する作業を特定する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0072 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」の演習で「両経路とも7日で同じである。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 最長経路ではない。
- イ. 所要期間で比較できる。
- ウ. 経路Bは3+8=11日で、経路Aの10日より長い。
- エ. 計算が誤っている。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「経路A。合計10日である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「作業数が同じなので判定できない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「経路B。合計11日で最長である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「経路時間」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。計算が誤っている。クリティカルパスは、開始から終了までの依存経路のうち所要期間が最長の経路である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0073 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：基礎

「日程可視化」に関する理解を確認する。「ガントチャート。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. ガントチャートは作業を時間軸上の横棒で表す。
- イ. データモデルを表す。
- ウ. 状態変化を表す。
- エ. オブジェクト構造を表す。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「ER図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「状態遷移図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「クラス図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「日程可視化」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。ガントチャートは作業を時間軸上の横棒で表す。 ガントチャートはスケジュール共有や進捗確認に広く利用される。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0074 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」を復習している。「インシデント。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. マイルストーンは重要な節目や時点を表す。
- イ. 発生した事象・事故を表す。
- ウ. 作業のまとめりである。
- エ. リスク情報を管理する文書である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「マイルストーン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ワークパッケージ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「リスク登録簿。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「重要時点」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。発生した事象・事故を表す。 主要な承認や成果物完了をマイルストーンとして管理すると、進捗状況を共有しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0075 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：応用

「クラッシングを理解する」ために、「レトロスペクティブ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 無秩序な範囲拡大である。
- イ. クラッシングは追加資源やコストを投入して期間短縮を図る。
- ウ. アジャイルの振り返りである。
- エ. 順次作業を一部並行化する技法である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「スコープクリープ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「クラッシング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「ファストトラッキング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「資源追加」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。アジャイルの振り返りである。クラッシングでは、追加コストと短縮効果を比較し、クリティカルパス上の作業を対象に判断する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0076 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「スケジュール・コスト・EVM」の「並行実施」を確認する。次の選択「ペアプログラミング。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 追加資源投入で短縮する技法である。
- イ. 復旧対策である。
- ウ. ファストトラッキングは順次関係の作業を一部並行化する。
- エ. 開発プラクティスである。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「クラッシング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「バックアップ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ファストトラッキング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「並行実施」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。開発プラクティスである。並行化は期間を短縮できるが、先行成果物の変更による手戻りリスクが増える。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0077 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：基礎

「スケジュール・コスト・EVM」を復習している。「0.8。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. $80 \div 100 = 0.8$ である。
- イ. $AC \div EV$ の逆数である。
- ウ. 差額20万円と取り違えている。
- エ. 合計値である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「1.25。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「20。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「180。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「コスト効率」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。 $80 \div 100 = 0.8$ である。CPIが1未満なら、得られた価値に対して実コストが大きく、コスト効率が悪いことを示す。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0078 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「進捗効率」に関する理解を確認する。「1.33。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 合計値である。
- イ. $PV \div EV$ の逆数である。
- ウ. $90 \div 120 = 0.75$ である。
- エ. 差額30万円と取り違えている。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「210。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「0.75。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「30。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「進捗効率」について、誤答肢のどこが適切かを説明できるかを確認する。 $PV \div EV$ の逆数である。SPIが1未満なら、計画に対して進捗が遅れていることを示す。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0079 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：応用

「スケジュール・コスト・EVM」を復習している。「CV=10で予算内、SV=20で前倒しである。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 二つの差を取り違えている。
- イ. 計画値・実績値が異なるため0にはならない。
- ウ. 符号が逆である。
- エ. $CV=80-90=-10$ 、 $SV=80-100=-20$ となる。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「 $CV=-20$ 、 $SV=-10$ である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「CVとSVはいずれも0である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「 $CV=-10$ で予算超過傾向、 $SV=-20$ で計画より遅れている。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「差異分析」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。符号が逆である。EVMではPV、EV、ACからコスト差異とスケジュール差異を定量的に把握する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0080 プロジェクトマネジメント > スケジュール・コスト・EVM | 難易度：標準

「コストベースラインを理解する」ために、「プロダクトバックログ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 名前解決結果である。
- イ. テスト網羅率である。
- ウ. コストベースラインは承認された予算管理の基準である。
- エ. アジャイルの要求一覧である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「DNSキャッシュ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「コードカバレッジ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「コストベースライン。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「スケジュール・コスト・EVM」の「予算管理基準」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。アジャイルの要求一覧である。承認された変更がある場合は、変更管理手続に従って必要に応じてコストベースラインも更新する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0081 プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：基礎

「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「プロセスと成果物」を確認する。次の判断「品質保証は適切なプロセスが実施されているかを重視し、品質管理は成果物の検査や測定を重視する。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 品質保証はプロセス側、品質管理は成果物の測定・検査側を中心に捉える。
- イ. 役割は区別される。
- ウ. 説明が逆・不十分である。
- エ. 品質活動の中心である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「どちらも完全に同じ意味である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「品質保証は成果物検査だけ、品質管理は経営方針だけを扱う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「どちらもプロジェクト品質とは関係しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「プロセスと成果物」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。品質保証はプロセス側、品質管理は成果物の測定・検査側を中心に捉える。プロセス改善と成果物検査の両方を組み合わせて品質を確保する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0082 プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の演習で「ガントチャート。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 状態変化を表す。
- イ. 日程表である。
- ウ. パレート図は件数の多い項目を順に並べ、重点問題を把握するのに適する。
- エ. データモデル図である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「状態遷移図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「パレート図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ER図。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「重点問題」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。日程表である。品質改善ではデータを可視化し、効果の大きい原因へ対策を集中する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0083

プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：基礎

「リスク記録」に関する理解を確認する。「ソースコード。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 名前解決情報である。
- イ. リスク登録簿はプロジェクトリスクの管理情報を集約する。
- ウ. プログラム実装である。
- エ. WBS要素の詳細説明を行う。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「DNSゾーンファイル。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「リスク登録簿。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「WBS辞書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「リスク記録」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。プログラム実装である。 リスクは一度分析して終わりではなく、状況変化に応じて継続的に監視・更新する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0084

プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「品質・リスク・調達・コミュニケーション」を復習している。「リスク移転だけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 何も対策せず受け入れる対応ではない。
- イ. 対象機能を中止する対応ではない。
- ウ. 早期検証で不確実性や発生確率を下げるためリスク低減に該当する。
- エ. 第三者へ負担を移す対応ではない。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「リスク受容だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「リスク回避だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「リスク低減。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「発生確率低下」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。第三者へ負担を移す対応ではない。 リスク対応は回避、低減、移転・共有、受容などから状況に応じて選ぶ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0085

プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：応用

「調達判断を理解する」ために、「必要機能、コスト、納期、品質、保守、技術力、リスクなどを比較して判断する。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. Make or Buyでは複数の条件を総合評価する。
- イ. 導入・保守費などを見落とす。
- ウ. 自社能力や納期によって最適解は変わる。
- エ. 適合性やロックイン等も考慮が必要である。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「購入価格だけで必ず決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「自社開発を常を選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「外部製品を常を選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「Make or Buy」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。Make or Buyでは複数の条件を総合評価する。 調達は価格だけでなくライフサイクル全体の価値とリスクで判断する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0086

プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「提案依頼」を確認する。次の選択「SBOM。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. RFPはRequest for Proposalで、調達先へ提案を求める文書である。
- イ. ソフトウェア部品表である。
- ウ. サービスレベル合意書である。
- エ. 証明書失効一覧である。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「RFP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「SLAだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「CRL。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「提案依頼」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ソフトウェア部品表である。 RFPでは目的、要求、制約、評価基準などを明確にすると提案を比較しやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0087 プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：基礎

「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の演習で「提案内容を確認せず抽選で決める。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 選定の説明責任を果たしにくい。
- イ. 調達先選定では目的に合った評価基準を設定する。
- ウ. 合理的な選定にならない。
- エ. 安価でも失敗コストが高くなる場合がある。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「評価記録を残さない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「価格だけでなく技術力、品質、実績、体制、リスクなどの評価基準で総合的に比較する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「必ず最安価格だけで決定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「総合評価」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。合理的な選定にならない。価格と品質、リスク、契約条件などをバランスよく評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0088 プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「情報配布」に関する理解を確認する。「口頭連絡だけで履歴を一切残さない。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 情報過多・不足の原因になる。
- イ. 意思決定できない。
- ウ. ステークホルダごとの必要情報を定義すると過不足ない共有ができる。
- エ. 重要事項では記録性も必要である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「全関係者へ同じ情報を同じ頻度で無条件に送る。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「重要情報を誰にも共有しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「受け手の情報ニーズに応じて内容、頻度、手段を設計するコミュニケーション計画。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「情報配布」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。重要事項では記録性も必要である。誰に、何を、いつ、どの方法で伝えるかを計画する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0089 プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：応用

「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の演習で「将来起こるかもしれないリスクではなく、既に発生した課題として対応する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 既に発生している問題は課題として解決・エスカレーションする。
- イ. 不確実な将来事象ではない。
- ウ. 発生済み問題も管理が必要である。
- エ. 進捗へ直接影響している。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「まだ起きていないリスクとして記録するだけでよい。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「発生済みなので管理対象外である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「品質保証だけへ分類し、進捗には影響しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「IssueとRisk」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。既に発生している問題は課題として解決・エスカレーションする。 リスクは不確実な将来事象、課題は既に発生した問題という違いを理解する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0090 プロジェクトマネジメント > 品質・リスク・調達・コミュニケーション | 難易度：標準

「教訓の活用を理解する」ために、「過去の失敗を隠す。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 継続的改善に反する。
- イ. 改善機会を失う。
- ウ. 教訓を記録・共有することで組織的な学習につなげられる。
- エ. 知識資産を失う。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「次のプロジェクトでも同じ失敗を繰り返す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「組織として得た教訓を蓄積し、将来の計画・判断の質を高める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「完了後は全資料を削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質・リスク・調達・コミュニケーション」の「Lessons Learned」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。改善機会を失う。 得た教訓は終結時だけでなく、プロジェクト中にも適宜収集・活用する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0091 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：基礎

「サービスマネジメント・SLM」の「価値提供」を確認する。次の選択「利用者要求に関係なく技術部門だけでサービス内容を決める。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. サービスマネジメントは顧客要求と事業価値を踏まえてサービスを計画・提供・改善する。
- イ. 設備増強は手段の一つにすぎない。
- ウ. 顧客との合意が重要である。
- エ. 障害情報は改善に必要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「顧客や利用者が必要とする価値を、合意したサービスとして継続的に提供・改善する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「サーバ台数を増やすことだけを目的とする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「障害件数を記録せず隠す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「価値提供」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。顧客との合意が重要である。サービスを技術要素の集合としてだけでなく、利用者へ価値をもたらす仕組みとして管理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0092 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：標準

「サービスマネジメント・SLM」の演習で「CRL。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. SLAはサービスレベル目標や責任などを顧客とサービス提供者の間で合意する文書である。
- イ. 提案依頼書である。
- ウ. 作業分解構造である。
- エ. 証明書失効リストである。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「RFP。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「WBS。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「合意文書」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。証明書失効リストである。SLMではSLAで合意した目標を継続的に監視・レビューする。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0093 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：基礎

「測定可能性」に関する理解を確認する。「稼働率を一貫した方法で測定できるサービスレベル指標。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 合意した目標は客観的に測定できる指標と測定方法が必要である。
- イ. 機器識別情報だけでは稼働率を評価できない。
- ウ. WBSはプロジェクト作業管理用である。
- エ. 主観だけでは達成判定を再現できない。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「サーバの製造番号だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「プロジェクトのWBSだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「担当者の主観的な印象だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「測定可能性」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。合意した目標は客観的に測定できる指標と測定方法が必要である。SLMでは目標値、測定方法、報告頻度まで明確にすると実績評価が可能になる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0094 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：標準

「サービスマネジメント・SLM」を復習している。「測定を中止して未達を見えなくする。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 透明性が失われる。
- イ. 改善機会を失う。
- ウ. SLA変更には顧客との合意が必要である。
- エ. SLMでは目標に対する実績を監視・レビューし、必要な改善へつなげる。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「未達実績を報告書から削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「SLAを顧客へ無断で緩和する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「原因と傾向を分析し、改善策を決めて次回以降の実績を継続監視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「実績比較」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。改善機会を失う。単発の値だけでなく継続的な傾向も確認してサービス品質を改善する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0095 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：応用

「サービスカタログを理解する」ために、「リスク登録簿。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. サービスカタログは顧客へ提供するサービスの情報を管理する。
- イ. 監査証拠や作業記録をまとめる文書である。
- ウ. プロジェクトリスクを管理する文書である。
- エ. 構成情報を管理する仕組みでありサービス説明全体とは異なる。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「サービスカタログ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「監査調書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「構成管理データベースだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「提供サービス一覧」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。プロジェクトリスクを管理する文書である。 サービスカタログは利用可能なサービスを明確にし、利用者との認識合わせに役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0096 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：標準

「サービスマネジメント・SLM」の「サービス要求」を確認する。次の選択「インシデント。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 重大なサービス中断ではない。
- イ. 標準的な提供依頼はサービス要求として扱う。
- ウ. 根本原因を管理する対象ではない。
- エ. サービス中断や品質低下が発生しているわけではない。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「重大障害。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「サービス要求。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「問題。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「サービス要求」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。サービス中断や品質低下が発生しているわけではない。 問い合わせや標準依頼と障害対応を区別すると、適切な優先順位と手順で処理できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0097 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：基礎

「サービスマネジメント・SLM」を復習している。「サービスデスク。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. サービスデスクは利用者との単一窓口として受付、記録、一次対応、引継ぎなどを行う。
- イ. 認証局である。
- ウ. プロジェクト管理支援組織である。
- エ. 変更要求の審議を行う会議体である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「CA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「PMO。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「CCB。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「SPOC」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。サービスデスクは利用者との単一窓口として受付、記録、一次対応、引継ぎなどを行う。 単一窓口化により利用者の問い合わせ先を明確にし、対応履歴を集約できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0098 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：標準

「外部サービス監視」に関する理解を確認する。「契約締結後は供給者の実績を一切確認しない。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 供給者目標と顧客向けSLAの整合が重要である。
- イ. 契約逸脱を見逃す可能性がある。
- ウ. 障害対応を遅らせる。
- エ. 外部供給者の実績は自社サービス品質に影響するため監視が必要である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「自社側のSLAとの依存関係を考慮しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「障害が起きても供給者へ連絡しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「契約内容と合意したサービス目標に照らして供給者のパフォーマンスを継続的に監視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「外部サービス監視」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。契約逸脱を見逃す可能性がある。 供給者管理では契約、関係、実績、責任分界を継続的に管理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0099 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：応用

「サービスマネジメント・SLM」を復習している。「監査の独立性確保だけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 測定結果から改善策を実施し、効果を確認する活動は継続的改善に当たる。
- イ. 資産廃棄だけの活動ではない。
- ウ. 監査体制の話ではない。
- エ. プロジェクト管理の範囲定義ではない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「サービスの継続的改善。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「構成品目の廃棄だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「プロジェクトのスコップ固定だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「KPI改善」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。監査体制の話ではない。サービスマネジメントではKPIや傾向情報を使って改善サイクルを回す。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0100 サービスマネジメント> サービスマネジメント・SLM | 難易度：標準

「顧客満足とSLAの関係を理解する」ために、「満足度調査を停止する。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 一方的変更は適切でない。
- イ. 数値達成だけで実際の価値や体験を十分に表せない場合がある。
- ウ. サービス品質の重要な情報を失う。
- エ. 改善機会を失う。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「目標値を顧客へ通知せず変更する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「SLA指標が利用者価値を十分に表しているか確認し、顧客との対話を通じて指標やサービス内容を見直す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「SLA達成中なので利用者の意見は無視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「サービスマネジメント・SLM」の「総合評価」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。改善機会を失う。SLMは合意指標の管理だけでなく、顧客関係や実際のサービス価値も考慮する必要がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0101 サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：基礎

「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「迅速復旧」を確認する。次の判断「中断・品質低下したサービスを可能な限り早く通常状態へ戻し、事業影響を抑える。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. インシデント管理はサービス復旧を優先する。
- イ. 変更管理の目的ではない。
- ウ. 構成管理の目的でもない。
- エ. 根本原因分析は主に問題管理の役割である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「全ての変更要求を承認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「構成品目を削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「全インシデントの根本原因を必ず受付時に完全解明する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「迅速復旧」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。インシデント管理はサービス復旧を優先する。一時的な回避策でもサービス復旧を優先し、根本原因は別途問題管理で扱うことがある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0102 サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の演習で「受付時刻が1秒早い方だけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 影響範囲が小さい。
- イ. 受付順だけでは事業影響を反映できない。
- ウ. 客観的な基準が必要である。
- エ. 多数利用者の重要業務を停止させるAは影響が大きく、通常高優先度となる。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「利用者数に関係なく必ずB。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「担当者が好きな方。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「影響度と緊急度が高いA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「影響度×緊急度」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。受付順だけでは事業影響を反映できない。インシデント優先度は影響度と緊急度などを基準に決定する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0103

サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：基礎

「根本原因」に関する理解を確認する。「資産廃棄。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 問題管理は根本原因を分析し、インシデントの再発防止を目指す。
- イ. 受付・復旧のみでは根本原因管理にならない。
- ウ. 資産管理の一部である。
- エ. 標準依頼の処理である。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「問題管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「インシデント受付だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「サービス要求管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「根本原因」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。資産管理の一部である。 インシデント管理と問題管理は目的を分けて連携する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0104

サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」を復習している。「監査証拠。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 原因と回避策が明らかな問題は既知の誤りとして管理できる。
- イ. 既に原因分析が進んでいる。
- ウ. 標準的な利用依頼ではない。
- エ. 監査用の証拠ではない。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「既知の誤り。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「未分類インシデント。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「新規サービス要求。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「Known Error」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。監査用の証拠ではない。 既知の誤り情報をサービスデスクと共有すると、再発時の迅速な復旧に役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0105

サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：応用

「変更管理を理解する」ために、「変更要求を記録し、リスク・利益・実現可能性・影響を評価して承認後に実施する。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 変更管理は無秩序な本番変更による障害を防ぐため、評価・承認・計画を行う。
- イ. 失敗時の復旧手段が必要である。
- ウ. 結果確認と事後レビューが重要である。
- エ. 統制されない変更はリスクが高い。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「ロールバック手順を考えない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「変更後の確認を行わない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「担当者の判断だけで直ちに本番変更する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「RFC評価」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。変更管理は無秩序な本番変更による障害を防ぐため、評価・承認・計画を行う。変更要求は優先度やリスクに基づいて統制し、安全に展開する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0106

サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「事前承認」を確認する。次の選択「プロジェクト憲章。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 緊急対応が必要な変更である。
- イ. プロジェクト立上げ文書である。
- ウ. 管理されていない変更である。
- エ. 標準変更は定型的で低リスクな変更を事前定義された手順で扱う。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「緊急変更。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「未承認変更。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「標準変更。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「事前承認」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。プロジェクト立上げ文書である。変更の種類に応じて承認方法を分けると、統制と効率を両立できる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0107 サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：基礎

「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の演習で「記録も承認も一切せず自由に変更する。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 緊急時でも統制を完全に捨てず、簡略化された緊急手続で迅速性を確保する。
- イ. 事業影響を拡大する。
- ウ. 追跡不能で新たな障害を生む可能性がある。
- エ. 変更結果の確認は必要である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「定められた緊急変更手続を用い、必要な承認・記録・事後レビューを確保して迅速に対応する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「通常変更と同じ待ち時間を必ず守り被害を放置する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「変更後の確認を禁止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「緊急手続」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。追跡不能で新たな障害を生む可能性がある。緊急変更は迅速性と統制のバランスを取る。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0108 サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：標準

「構成品目」に関する理解を確認する。「サービスレベル管理だけ。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 監査活動である。
- イ. 構成管理は構成品目とその情報を管理する。
- ウ. リスク対応分類である。
- エ. SLA管理だけでは構成情報を扱えない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「監査フォローアップだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「サービス構成管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「リスク受容だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「構成品目」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。SLA管理だけでは構成情報を扱えない。正確な構成情報は障害調査や変更影響分析の基盤となる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0109

サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：応用

「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の演習で「実環境と構成情報を照合して差異を是正し、登録・変更手続が守られているか確認する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 構成情報は実環境と一致している必要があり、定期的な検証が必要である。
- イ. 差異が拡大する。
- ウ. 属人化する。
- エ. 誤った情報を基に変更すると障害につながる。

答え・解説

正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「構成情報の更新を停止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「4台目の存在を担当者だけの記憶に任せる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「実環境を無視して台帳だけ正しいことにする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「構成監査」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。構成情報は実環境と一致している必要があり、定期的な検証が必要である。構成管理では識別、記録、制御、追跡、検証を継続的に行う。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0110

サービスマネジメント> インシデント・問題・変更・サービス構成管理 | 難易度：標準

「インシデント・問題・変更管理を連携できる」ために、「インシデントを閉じたら原因は無視する。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 新たな障害を起こすリスクがある。
- イ. 再発防止につながらない。
- ウ. 変更後の構成情報更新も必要である。
- エ. 問題管理で恒久対策を特定し、変更管理で安全に実施するのが適切である。

答え・解説

正答：イ

ア：この説明は元の論点では「原因判明後は承認なしで本番変更する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「構成情報を更新しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「問題管理で原因と対策を整理し、変更管理でリスクを評価・承認して本番変更する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「インシデント・問題・変更・サービス構成管理」の「恒久対策」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。再発防止につながらない。各管理プロセスは独立ではなく、サービス品質向上のため相互に連携する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0111 サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：基礎

「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「目標監視」を確認する。次の選択「停止原因を記録しない。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 可用性管理では実績を測定し、目標とのギャップを改善する。
- イ. 客観的管理ができない。
- ウ. 再発防止につながらない。
- エ. 目標管理ができない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「サービスの可用性を測定し、目標と比較して未達原因を分析・改善する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「利用率を測定せず感覚だけで判断する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「SLA目標と実績を比較しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「目標監視」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。再発防止につながらない。信頼性、保守性、回復力などもサービス可用性に影響する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0112 サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：標準

「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の演習で「99.9%。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. MTTRの割合と混同している。
- イ. $990 \div (990 + 10) = 990 \div 1000 = 0.99$ なので99%である。
- ウ. 停止率に近い値である。
- エ. 計算結果が異なる。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「10%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「99%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「1%。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「MTBF/MTTR」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。計算結果が異なる。MTBFを長くしMTTRを短くすると一般に稼働率は高くなる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0113 サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：基礎

「需要予測」に関する理解を確認する。「容量・能力管理。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. 容量・能力管理は需要に応じて必要な資源性能を計画・提供する。
- イ. 独立評価活動である。
- ウ. ソフトウェア利用権管理である。
- エ. 根本原因管理である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「システム監査だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「ライセンス監査だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「問題管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「需要予測」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。容量・能力管理は需要に応じて必要な資源性能を計画・提供する。利用率や性能データを継続監視し、過不足を早期に把握する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0114 サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：標準

「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」を復習している。「監視データを削除する。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 性能劣化や障害の直前対応になる。
- イ. 傾向分析ができなくなる。
- ウ. 根本対策にならない。
- エ. 将来の需要を先読みして必要容量を準備するのがキャパシティ管理である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「上限到達まで何も検討しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「負荷増加を利用者へ隠すだけにする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「需要予測を基に増強やスケールアウトの時期を計画し、性能を継続監視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「閾値監視」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。傾向分析ができなくなる。しきい値やトレンドを利用して余裕を持った容量計画を行う。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0115

サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：応用

「サービス継続管理を理解する」ために、「監査調書だけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. サービス継続管理では重大障害時の復旧方法を計画し、定期的に試験する。
- イ. サービス説明文書だけでは復旧できない。
- ウ. 監査作業記録である。
- エ. 障害原因記録だけでは代替手段を定められない。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「サービス継続計画。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「サービスカタログだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「問題記録だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「継続計画」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。監査作業記録である。 RTOやRPOなどの目標に合わせて代替設備、データ復旧、連絡手順を準備する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0116

サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：標準

「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「待機系」を確認する。次の選択「単一構成。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. ホットスタンバイは待機系を稼働可能な状態で準備するため短時間で切替えやすい。
- イ. 設備や環境の準備に時間がかかる方式である。
- ウ. データ復旧手段がない。
- エ. 冗長性がない。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「ホットスタンバイ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「コールドスタンバイ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「バックアップ未取得。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「待機系」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。冗長性がない。 復旧時間目標とコストのバランスで待機方式を選ぶ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0117 サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：基礎

「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」を復習している。「ファシリティマネジメント。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. ファシリティマネジメントはITサービスを支える建物や設備を管理する。
- イ. 開発成果物の版管理である。
- ウ. アジャイルの要求管理である。
- エ. サービス障害の根本原因管理である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「ソースコード管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「プロダクトバックログ管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「問題管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「施設基盤管理」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。ファシリティマネジメントはITサービスを支える建物や設備を管理する。ITシステムの可用性はサーバだけでなく電源・空調・防災設備にも依存する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0118 サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：標準

「停電対策」に関する理解を確認する。「IDS。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. Web攻撃対策装置である。
- イ. 侵入検知システムである。
- ウ. 要求分散装置である。
- エ. UPSは無停電電源装置で、停電・瞬断時の電力供給を支援する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「WAF。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ロードバランサ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「UPS。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「停電対策」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。侵入検知システムである。UPSと自家発電設備を組み合わせることで電源障害への耐性を高められる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0119

サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：応用

「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」を復習している。「全ラックの吸排気方向を無作為にする。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 吸気側と排気側を分離することで冷却効率を高められる。
- イ. 機器温度上昇につながる。
- ウ. 熱気と冷気が混ざり効率が低下する。
- エ. 再循環で過熱しやすい。

答え・解説

正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「ホットアイルとコールドアイルを分離する配置。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「空調を停止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「排熱を吸気口へ直接戻す。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「ホット/コールドアイル」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。熱気と冷気が混ざり効率が低下する。ファシリティ設計では温度、電力、空調、災害対策を総合的に管理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0120

サービスマネジメント > 可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ | 難易度：標準

「可用性・継続性・容量を統合して考えられる」ために、「サーバを二台にした時点で全ての障害を防げる。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. バックアップはデータ復旧策であり即時可用性を保証しない。
- イ. 冗長化しても依存する共通設備が一つなら単一障害点が残る。
- ウ. 容量と電源冗長性は別の論点である。
- エ. 共通原因故障を考慮する必要がある。

答え・解説

正答：エ

ア：この説明は元の論点では「バックアップがあればリアルタイム停止は必ず防げる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「共通設備の故障で両系統が同時停止する共通原因障害が残っている。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「容量管理だけを行えば電源障害は起きない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「可用性・キャパシティ・継続性・ファシリティ」の「共通原因障害」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。共通原因故障を考慮する必要がある。サービス可用性ではサーバ、ネットワーク、電源、空調、拠点など依存関係全体を見る。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0121 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：基礎

「システム監査・監査手続・証拠」の「独立評価」を確認する。次の判断「変更管理の統制がリスクへ適切に対応しているかを独立・客観的に検証し、根拠に基づいて保証又は改善助言を行う。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 監査人は独立・客観的な立場から統制を検証・評価し、保証や助言を行う。
- イ. 是正の実施主体と監査主体は分離するのが基本である。
- ウ. 監査結論は十分な証拠に基づいて形成する必要がある。
- エ. 監査人が業務実行主体になると独立性を損ないやすい。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「不備が見つかったら監査人自身が本番設定を直接修正する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「証拠を確認せず、依頼者の期待する結論に合わせて報告する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「監査対象部門の代わりに日常の変更承認を恒久的に実施する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「独立評価」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。監査人は独立・客観的な立場から統制を検証・評価し、保証や助言を行う。システム監査は、情報システムに係るリスクへの対応状況を独立かつ客観的に検証・評価し、組織の目標達成や説明責任を支援する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0122 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：標準

「システム監査・監査手続・証拠」の演習で「アクセス管理は監査対象にできないから。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 知識は必要だが利害関係からの独立性を確保する必要がある。
- イ. アクセス管理も監査対象になり得る。
- ウ. 内部監査でも監査証拠を用いる。
- エ. 自ら実施した業務を自ら評価すると客観性に疑義が生じやすい。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「監査では担当業務の知識を持つてはいけないから。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「内部監査では証拠を使えないから。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「監査の独立性と客観性が損なわれるおそれがあるから。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「自己監査回避」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。アクセス管理も監査対象になり得る。監査体制では対象業務との関係を考慮し、独立性を保てる担当配置が必要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0123 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：基礎

「計画・実施・報告・フォロー」に関する理解を確認する。「改善提案後は実施状況を一切確認しない。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. システム監査は計画、実施、報告、フォローアップの流れで行う。
- イ. 結論は証拠に基づいて形成する必要がある。
- ウ. フォローアップも監査プロセスの重要な活動である。
- エ. 有効かつ効率的な監査には事前計画が必要である。

答え・解説 正答：ウ

- ア：この説明は元の論点では「監査計画を策定し、監査を実施し、結果を報告し、必要に応じて改善状況をフォローアップする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「監査報告を先に作成し、その後で証拠を集める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- エ：この説明は元の論点では「監査対象や目的を定めず調査を始める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- 総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「計画・実施・報告・フォロー」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。フォローアップも監査プロセスの重要な活動である。 監査目的と対象範囲を明確にした上で、必要な証拠を収集・評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0124 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：標準

「システム監査・監査手続・証拠」を復習している。「最も重要なシステムを監査対象から外す。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 監査の客観性が損なわれる可能性がある。
- イ. リスクアプローチでは重要度やリスクの高い領域を重点的に監査する。
- ウ. 限られた資源を有効活用できない。
- エ. 重大な問題を見逃す可能性がある。

答え・解説 正答：エ

- ア：この説明は元の論点では「監査対象部門が希望する箇所だけ確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は元の論点では「リスクの大きい業務・システムを優先し、監査資源を重点配分する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「全対象を無作為に同じ時間だけ確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- 総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「監査重点」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。重大な問題を見逃す可能性がある。 監査計画はリスク評価を基に目的、範囲、方法、時期、体制を定める。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0125 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：応用

「監査証拠を理解する」ために、「現在の証拠だけで年間を通じて統制が機能したと断定せず、追加の記録や他の証拠を入手して十分性・適切性を評価する。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 監査結論には十分かつ適切な証拠が必要で、不足している場合は追加手続を検討する。
- イ. 証拠不足から直ちに全期間未実施とは断定できない。
- ウ. 監査人が証拠を作ることは不適切である。
- エ. 口頭説明だけでは統制実施を十分に裏付けられない場合がある。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「記録が不足しているため、統制が一度も実施されていないと直ちに断定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「不足している月の記録を監査人が後から作成して証拠にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「担当者の口頭説明だけで年間全期間の実施を証明済みとする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「客観的根拠」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。監査結論には十分かつ適切な証拠が必要で、不足している場合は追加手続を検討する。監査証拠は量だけでなく信頼性や監査目的との関連性も含めて評価し、結論を支えるだけの十分性・適切性を確保する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0126 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：標準

「システム監査・監査手続・証拠」の「再実施」を確認する。次の選択「関係のないサーバのCPU使用率だけを見る。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 口頭説明だけでは実施事実を十分に裏付けられない場合がある。
- イ. 対象統制と直接関係しない。
- ウ. 監査結論は監査人が客観的に形成する。
- エ. 証拠照合や再実施は統制が実際に機能したかを確認する有効な監査手続である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「説明だけを無条件に信用し、証拠を確認しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「監査対象者へ結論を決めてもらう。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「対象期間の退職者一覧とID状態を照合し、必要に応じて監査人自身が手続を再実施する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「再実施」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。対象統制と直接関係しない。質問、閲覧、観察、再実施など複数の手続を組み合わせると証拠の信頼性を高める。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0127 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：基礎

「システム監査・監査手続・証拠」の演習で「インシデント記録だけ。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 監査調書は監査作業と結論を裏付ける記録である。
- イ. サービスレベル合意書である。
- ウ. 監査記録全体とは異なる。
- エ. 構成情報の管理記録である。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「監査調書。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「SLA。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

エ：この説明は元の論点では「構成品目台帳。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「作業記録」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。監査記録全体とは異なる。監査調書は監査品質の確認や後日の説明にも利用される。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0128 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：標準

「指摘と改善提案」に関する理解を確認する。「改善案を示さず口頭で批判するだけにする。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 監査報告は証拠に基づき、事実・評価・改善提案を明確に伝える。
- イ. 客観性を欠く。
- ウ. 説明責任を果たせない。
- エ. 改善につながりにくい。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「事実と根拠を明確にし、リスクや影響を示した上で必要な改善を提案する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

イ：この説明は元の論点では「証拠がなくても推測だけで断定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

ウ：この説明は元の論点では「監査対象部門に不利な事実を全て削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「指摘と改善提案」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。改善につながりにくい。報告は監査目的に応じた形式で、適切な関係者へ行う。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0129 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：応用

「システム監査・監査手続・証拠」の演習で「改善計画が適切か、所要の措置が期限内に実施されているかを確認する。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. フォローアップでは改善提案や改善計画の実施状況を確認する。
- イ. 監査人が運用主体になると独立性を損ない得る。
- ウ. 実態と異なる。
- エ. 改善が放置される可能性がある。

答え・解説 正答：ア

- ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- イ：この説明は元の論点では「監査人が対象部門の代わりに日常運用を恒久的に担当する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- ウ：この説明は元の論点では「未実施でも自動的に完了扱いにする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「監査報告を出した時点で以後の状況は一切確認しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「改善確認」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。フォローアップでは改善提案や改善計画の実施状況を確認する。監査は指摘だけでなく、改善の実効性を確認することも重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0130 システム監査・内部統制 > システム監査・監査手続・証拠 | 難易度：標準

「監査証拠の信頼性を比較できる」ために、「後から自由に書き換えられる無記名の表計算ファイルだけ。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. 記憶違いの可能性がある。
- イ. 改ざん可能性が高い。
- ウ. 出所や作成時点を確認にくい。
- エ. 真正性や完全性を確認しやすいシステム記録は監査証拠として信頼性が高い。

答え・解説 正答：イ

- ア：この説明は元の論点では「担当者の記憶だけに基づく口頭説明。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
- ウ：この説明は元の論点では「作成者不明の手書きメモ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- エ：この説明は元の論点では「承認者と日時が記録された改ざん防止されたワークフロー履歴。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
- 総合解説：この問題は「システム監査・監査手続・証拠」の「証拠評価」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。改ざん可能性が高い。監査証拠は出所、客観性、完全性、検証可能性などを考慮して評価する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0131 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：基礎

「内部統制・ITガバナンス」の「組織的統制」を確認する。次の選択「担当者の経験だけに任せ、手順を文書化しない。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 内部統制では業務プロセス、責任、ルール、チェックを明確にすることが重要である。
- イ. 相互けん制が働かなくなる。
- ウ. 属人化し、統制の再現性がない。
- エ. 事後検証や責任追跡が困難になる。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「業務プロセスを明確化し、職務分掌・承認ルール・記録・チェック体制を整備して運用する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「一人の担当者へ発注・検収・支払承認を全て集中する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「承認記録は残さず、問題発生時だけ口頭確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。

総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「組織的統制」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。属人化し、統制の再現性がない。 内部統制は健全かつ効率的な組織運営のため、業務プロセスの明確化、職務分掌、実施ルール、チェック体制などを整備・運用する仕組みである。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0132 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：標準

「内部統制・ITガバナンス」の演習で「一人へ全権限を集中する。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 高額取引ほど厳格な統制が必要である。
- イ. 職務分掌は一人で不正や誤りを完結しにくくする相互けん制である。
- ウ. 追跡性が低下する。
- エ. 不正リスクを高める。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「支払額が大きいか確認を減らす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「発注、検収、支払承認など相反する職務を複数担当者へ分離する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「承認記録を残さない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。

総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「相互けん制」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。不正リスクを高める。 内部統制では権限分離と承認手続を組み合わせることが多い。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0133 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：基礎

「基盤統制」に関する理解を確認する。「システム開発・変更管理、アクセス管理、運用管理などIT環境全体に共通する統制。」という結論を支持する説明として最も適切なものはどれか。

- ア. IT全般統制は複数システムの信頼性を支える共通基盤の統制である。
- イ. 個別業務処理に関する統制である。
- ウ. 個別アプリケーションの入力統制である。
- エ. 「売上入力画面で金額がマイナスにならないよう検査する個別処理だけ。」は業務処理統制の例である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「一つの帳票の合計値だけを確認する処理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「特定取引だけの入力チェック。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「売上入力画面で金額がマイナスにならないよう検査する個別処理だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「基盤統制」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。IT全般統制は複数システムの信頼性を支える共通基盤の統制である。IT全般統制が弱いと、個別システムの統制も信頼しにくくなる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0134 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：標準

「内部統制・ITガバナンス」を復習している。「IT全般統制だけ。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 企業統治のより上位概念である。
- イ. 開発・アクセス・運用など環境全体の統制とは異なる。
- ウ. 施設設備管理である。
- エ. 特定業務処理の正確性や完全性を確保するアプリケーション上の統制である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「コーポレートガバナンスだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「ファシリティ管理。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「ITに係る業務処理統制。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「入力チェック」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。開発・アクセス・運用など環境全体の統制とは異なる。入力、処理、出力の各段階で業務処理統制を設ける。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0135 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：応用

「ITガバナンスを理解する」ために、「最も新しいクラウド製品を必ず採用する。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. ITガバナンスでは経営がITの方向性を示し、その実現を監督する。
- イ. 全社最適や重複投資を防ぎにくい。
- ウ. 新しさだけで事業価値は判断できない。
- エ. 投資効果やリスクを管理できない。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「経営層がステークホルダのニーズと経営戦略を踏まえてIT戦略・方針を示し、投資・リスク・成果を継続的に監督する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「各部門に全てのIT判断を任せ、全社方針を設けない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「IT投資の成果やリスクは測定せず、導入件数だけを増やす。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「経営による方向付け」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。新しさだけで事業価値は判断できない。ITガバナンスは、ITを経営目的達成のための資源として統治し、価値・リスク・資源・説明責任を経営レベルで管理する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0136 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：標準

「内部統制・ITガバナンス」の「経営責任」を確認する。次の選択「CSIRTだけ。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. サービスデスクは利用者窓口を管理する。
- イ. CIOはChief Information Officerで、組織の情報・IT戦略を統括する役割を担う。
- ウ. CISOは主に情報セキュリティを統括する。
- エ. CSIRTはインシデント対応組織である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「サービスデスク責任者だけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「CIO。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「CISOだけ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「経営責任」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。CSIRTはインシデント対応組織である。組織によって役割分担は異なるが、CIOとCISOの代表的な責任領域を区別する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0137 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：基礎

「内部統制・ITガバナンス」を復習している。「内部統制には限界があり、統制を整備しても全リスクをゼロにはできない。」と判断できる理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 人の判断や共謀、経営者による無効化などにより内部統制には限界がある。
- イ. 監査も絶対保証ではない。
- ウ. 経営による監督は必要である。
- エ. 職務分掌は有効な低減策である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「監査を実施すれば不正は絶対に起きない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「内部統制があれば経営判断は不要である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「職務分掌は常に無意味である。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「共謀」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。人の判断や共謀、経営者による無効化などにより内部統制には限界がある。統制の限界を理解し、複数の予防・発見統制を組み合わせる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0138 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：標準

「自己評価」に関する理解を確認する。「CI/CD。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. DNSデータの真正性確認技術である。
- イ. ソフトウェア開発・配備の自動化手法である。
- ウ. ストレージ冗長化方式である。
- エ. CSAはControl Self Assessmentで、現場自らが統制状況を評価する。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「DNSSEC。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「RAID。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「CSA（統制自己評価）。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「自己評価」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ソフトウェア開発・配備の自動化手法である。自己評価は内部監査を完全に代替するものではないが、日常的な統制改善に役立つ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0139 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：応用

「内部統制・ITガバナンス」を復習している。「技術性能だけ良ければ遵守状況は不要である。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 情報システムの運用は関連法令・規程への適合も継続的に確認する必要がある。
- イ. 法令や制度は変化し得る。
- ウ. 性能とコンプライアンスは別の評価軸である。
- エ. 是正機会を失う。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「法令・規程の遵守状況进行评估し、逸脱があれば改善する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「一度稼働したら法令変更を確認しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「規程違反が見つかっても記録しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「遵守状況」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。性能とコンプライアンスは別の評価軸である。ITガバナンスでは法令遵守も重要な監督対象となる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0140 システム監査・内部統制 > 内部統制・ITガバナンス | 難易度：標準

「IT投資と経営戦略を整合できる」ために、「経営目標を考慮せず情報システム部門だけで決める。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. IT投資は事業価値とリスクの観点から経営戦略と整合させる必要がある。
- イ. 新しさだけでは価値を判断できない。
- ウ. 価格の高さは価値を保証しない。
- エ. ガバナンス上、経営との整合が必要である。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「経営戦略との整合、期待効果、リスク、コスト、実現性を比較して投資優先順位を決める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「最新技術を使う案を必ず選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「最も高価な案を必ず選ぶ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「内部統制・ITガバナンス」の「戦略整合」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。ガバナンス上、経営との整合が必要である。ITガバナンスではITを経営目的達成のための資源として統治する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0141 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：基礎

「品質保証・レビュー・モニタリング」の「早期欠陥検出」を確認する。次の判断「欠陥や矛盾を早期に発見し、後工程への流出と手戻りを減らす。」が適切である根拠として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. レビューは静的に成果物を確認して欠陥を早期発見する活動である。
- イ. 実質的な確認がなければ品質向上につながらない。
- ウ. 人ではなく成果物とプロセスの改善を目的とする。
- エ. 動的テストも別途必要である。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「成果物を読まず承認印だけ集める。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「担当者を非難することを主目的とする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「レビューだけで全テストを不要にする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「早期欠陥検出」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。レビューは静的に成果物を確認して欠陥を早期発見する活動である。早い工程で欠陥を除去するほど修正コストを抑えやすい。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0142 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：標準

「品質保証・レビュー・モニタリング」の演習で「負荷分散。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 非公式レビューとは異なる。
- イ. 性能・可用性の技術である。
- ウ. 運用上のインシデント対応である。
- エ. インспекションは役割や手順を定めて実施する体系的なレビューである。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「雑談だけの非公式確認。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「本番障害対応。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「インспекション。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「公式レビュー」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。性能・可用性の技術である。レビュー方式は目的や成果物の重要度に応じて使い分ける。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0143 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：基礎

「作成者主導レビュー」に関する理解を確認する。「ペネトレーションテスト。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. ウォークスルーは作成者が成果物を説明し参加者と確認するレビュー方式である。
- イ. スケジュール短縮技法である。
- ウ. セキュリティ侵入試験である。
- エ. 障害時切替えである。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「ウォークスルー。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「クラッシング。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「フェイルオーバ。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「作成者主導レビュー」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。セキュリティ侵入試験である。 非公式なものから正式なものまでレビューには複数の形態がある。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0144 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：標準

「品質保証・レビュー・モニタリング」を復習している。「測定値を集めるだけで一切評価しない。」が正答にならない理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 基準がなければ評価しにくい。
- イ. モニタリングは現状を定量的に把握し、目標との差異や傾向を確認する。
- ウ. 重要な兆候を失う。
- エ. データを改善へ活用できない。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「目標値を設定せず良否を判断する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「サービスやプロセスの状態を継続的に把握し、問題の早期発見と改善判断に使う。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「異常値を自動的に削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「KPI傾向」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。データを改善へ活用できない。 測定、分析、評価、改善を一連の活動として回すことが重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0145 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：応用

「品質指標を適切に設定できる」ために、「障害件数、再作業率、レビュー指摘密度など、目的に合う測定可能な指標と目標値を設定する。」という判断の根拠を確認したい。最も適切な説明はどれか。

- ア. 品質目標は測定可能な指標へ落とし込むと客観的に評価できる。
- イ. 再現性が低い。
- ウ. データの信頼性を損なう。
- エ. 改善効果を判断できない。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「担当者の感覚だけで毎回判定する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「測定値が悪いときだけ記録を削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「評価指標を一切設定しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「測定可能性」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。品質目標は測定可能な指標へ落とし込むと客観的に評価できる。指標は数値化するだけでなく、品質目標との因果関係を意識して選ぶ。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0146 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：標準

「品質保証・レビュー・モニタリング」の「再発防止」を確認する。次の選択「発生した不具合だけを毎回直し、原因を調べない。」が不適切である理由として、最も直接的な説明はどれか。

- ア. 改善に必要な情報を失う。
- イ. 一時修正だけでは再発する可能性がある。
- ウ. 継続的改善に反する。
- エ. 是正処置は原因を除去し再発を防ぐことが目的である。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「不具合記録を削除する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「同じ不具合が再発しても問題なしとする。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「根本原因を分析し、再発原因を除去する対策を実施して効果を確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「再発防止」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。一時修正だけでは再発する可能性がある。原因分析、対策、効果確認まで行って改善を定着させる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0147 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：基礎

「品質保証・レビュー・モニタリング」の演習で「レビュー自体を廃止する。」を選ぶと誤答になる。その理由として最も適切なものはどれか。

- ア. 共通傾向を分析して標準や教育へ反映すると欠陥の予防に役立つ。
- イ. 組織的な再発を防げない。
- ウ. 早期欠陥検出の機会を失う。
- エ. 改善判断に必要なデータを失う。

答え・解説 正答：ウ

ア：この説明は元の論点では「設計テンプレートやチェックリスト、教育内容を見直し、同種欠陥の予防につなげる。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「個別指摘だけ修正し、共通原因は確認しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
エ：この説明は元の論点では「指摘件数を報告しない。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「予防的改善」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。早期欠陥検出の機会を失う。品質保証では個別成果物だけでなく、プロセス自体の弱点を改善する。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0148 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：標準

「アラート設計」に関する理解を確認する。「全てのしきい値を0%にする。」という判断の問題点を説明しているものはどれか。

- ア. 属人化と見逃しのリスクが高まる。
- イ. 監視条件を実態に合わせて調整すると誤警報を減らし重要イベントへ集中できる。
- ウ. 異常を検知できなくなる。
- エ. 大量の不要通知が発生する。

答え・解説 正答：エ

ア：この説明は元の論点では「通知を一人の担当者だけに送り続ける。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は元の論点では「通常変動や継続時間を考慮してしきい値・条件を見直し、重要度別にアラートを設計する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「アラートを全て停止する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「アラート設計」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。大量の不要通知が発生する。モニタリングでは検知感度と運用可能性のバランスを取る。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0149 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：応用

「品質保証・レビュー・モニタリング」の演習で「品質ゲート。」を正しい判断として採用した。その理由を最も適切に説明しているものはどれか。

- ア. 品質ゲートは定めた品質基準を満たすことを次工程への条件とする。
- イ. 利用者からの定型依頼である。
- ウ. 構成管理対象である。
- エ. 欠陥が残っていても進むため品質リスクが高い。

答え・解説 正答：ア

ア：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
イ：この説明は元の論点では「サービス要求。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
ウ：この説明は元の論点では「構成品目。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「無条件リリース。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「品質ゲート」について、結論だけでなく正答理由を説明できるかを確認する。品質ゲートは定めた品質基準を満たすことを次工程への条件とする。客観的な基準を用いることでリリース判断の一貫性を高められる。

基準：2026年度 / 2026-09-04

0150 システム監査・内部統制 > 品質保証・レビュー・モニタリング | 難易度：標準

「モニタリング結果のレビューを理解する」ために、「平均復旧時間の記録を中止する。」という選択の誤りを検討する。最も適切な説明はどれか。

- ア. サービス品質の一部を見落とす。
- イ. 改善に必要な情報を失う。
- ウ. 継続的改善に反する。
- エ. 一つの指標だけでなく複数の観点から品質を評価し、改善へつなげる必要がある。

答え・解説 正答：イ

ア：この説明は元の論点では「障害率が下がったので他の指標は無視する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
イ：この説明は、設問中の判断を評価するための直接の根拠を示しており、今回の問いに適切である。
ウ：この説明は元の論点では「目標未達でも改善活動は不要と判断する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
エ：この説明は元の論点では「複数指標を合わせて原因を分析し、復旧手順や体制の改善を計画して次回の指標で効果を確認する。」に対応する内容であり、今回指定された判断の直接の根拠ではない。
総合解説：この問題は「品質保証・レビュー・モニタリング」の「継続的改善」について、誤答肢のどこが不適切かを説明できるかを確認する。改善に必要な情報を失う。モニタリング、レビュー、是正・改善というサイクルを回すことが品質維持に重要である。

基準：2026年度 / 2026-09-04